

心を決めて受験に向かおう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

ついに年の暮れ、受験もスタートしました。今年の記事フェスティバルにこんな一文がありました。『「失敗は成功の基である」ではなく、「失敗は成功の一種である」の方が正しいと思う。』このポジティブな考え方に思わず唖ったという事なのですが、例えば成績が悪かった時も「勉強はそれなりにしたとしても悪い成績をとるということを証明することに成功した」とか「全く勉強しないと成績が確実に落ちるという事実を証明することに成功した。」とかいう言い方ができるし、事実を言っているのにどんなことでも明るく受け止められる感じになります。「勉強しないほうが良い成績をとれる」と豪語している生徒がたまにいますが、このことを実践し続けると必ずいつかは悪い成績をとることになるはずですよ。

そこで初めて「勉強しないと悪い成績をとるという事を証明できた」ともなるわけです。「失敗は成功の基」自体がポジティブな意味なので、それをさらにポジティブにしてしまうメンタルというのは、やはり大切かもしれません。「もう無理！」「こんな成績で合格する訳がない！」とくよくよ考えるより、確かにこの感覚の方が有効だと思います。

先月までに小6、中3、高3と合同特訓があり、その中で細かく教科ごとの基礎レベル確認がなされていきました。生徒の皆さんはどう感じたかわかりませんが、当然知っていなければならないことができていなかったり、そもそも単元の内容が把握されておらず、基本的なことでミスを繰り返すという事に、採点をしていて多少焦りを感じました。

合同特訓は言ってみれば、自分の弱点を見つけるという点で個々人の課題を浮き彫りにしてくれたような気がします。性急な第三者からすると、「こんなこともわかっていないのか？こんなんじゃ無理！」となりそうですが、ここにまず気がついてそこを一つ一つ潰していくことは大変なようで案外容易いことです。なぜならそれに基づいて行動方針が自ずから決まるからです。「できなかった」＝失敗と考えると、この失敗を成功にするためには何をすればいいかわかるという事です。つまり「うまくいかない方法を見つけた」のであり、うまくいさせる方法に気がついたという事にもなるのです。

合同特訓以降、生徒の中に「真剣さ」が出てきた気がするのです。わからないことを漠然と放置してはいけないし、ちゃんとわかるためにどうしなければいけないかについて気がつけば状況の打開は、案外簡単なものだという事。つまりなんとなくやっていた勉強が、少しずつでも前に進むようになるからです。正しくしかも有効な方法に気がつくまでの個人差が成績の高い低いになるのだと思います。どんなに受験直前でも、このことに気がつくことの重要さは計り知れません。「失敗」がなければ成功はないと考えると、事実「失敗」というのはこの世に存在しないという事になります。何もしなかったというのは失敗という事とは全く違う次元の事です。くよくよするなという事より、失敗したと思悩むという事自体がすでに成功の扉に近づく最短距離なのだと思います。

こんな文章を書いていると私自身もいろんなことの「失敗」にくよくよしていることに気がつきます。この「くよくよ」が成功につながる一歩と考えることが、大事なことであることは間違いありません。ごまかさず、やりきる事。自分を深く見つめること…。人の失敗をあざ笑うことより、失敗しても立ち直ることの方が、価値が大きいと思います。

受験がはじまりました。周りが急に騒がしくなると思いますが、ここは心を決めましょう。「模擬試験で合格を占う穴に陥る」ことなく、自分の一歩一歩を進めましょう。入試のレベルで分かっていないところを一つ一つ塗りつぶすと同時に、あらゆる基本について習熟を積みましょう。基礎トレーニングを繰り返しながら、うまくいかないところを重点的につぶしていきましょう。ここから3カ月、塾の正念場に入ります。自分を見つめ自分を変えることでしか、多分自分を取り巻く世界は変わらないということ。まず自分が変わるところから始めるという「インサイドアウト」を実行しませんか？そして失敗を恐れなくて、受験に向かいましょう。心を決めた後は、実践あるのみです。